

■日程：2024年5月8日（水）～5月11日（土）

■ボランティア参加者数：17名

■サロン実施場所および被災者の参加者数

日時	サロン実施場所	被災者の参加者数
5月9日（木）	穴水町諸橋地区 仮設住宅団地	17名
5月9日（木）	輪島市町野地区 金蔵集会所	16名
5月10日（金）	輪島市門前地区 禅の里交流館	40名
5月10日（金）	輪島市門前地区 皆月多目的集会施設	37名

■被災者の声（主なもの）

- ・地域の情報が得られないことが不安。回覧板が回っていない、ネットが使えないので地域の情報を入手する方法がない。
- ・仮設住宅に入居しているが、土いじりをしたい。近くの農園の一画を借りられないか。
- ・家の片付けをボランティアに頼んだが、何を捨てるかをすぐに判断しなければいけない気がして、あとから捨てなければよかったと思うものもあった。
- ・買い物も学校も大変。町野まで4kmある。児童の送迎において親の負担が多い。
- ・3日前に仮設住宅に入居したが、洗濯機やお風呂の使い方が分からず使えていない。
- ・どれだけ片づけても終わりが見えない。仮設は2年間しか住めないから土地をどうするか、どこに住むか。今後が不安。知り合いのいない場所に行きたくないからここに残りたい。
- ・海を見ながら入れる温泉が地域にあったが「今は海を見るのが怖い」。

■ボランティアの所感（主なもの）

- ・サロン活動を知っている方が多く、活動が浸透していると感じた。
- ・同時間帯に開催されたイベント（コンサート、体操など）の影響もあってか途切れることなく人が集まった。歌を歌ったら喜ばれた。笑顔が多くその場の一体感が生まれた。
- ・地域の方がお手伝いで参加してくれた。
- ・被災後に初めて顔を合わせたという方もいて、お互いの安否や近況を知る機会になっている。
- ・人が集まる場所が苦手な男性は多いと思うので配慮しつつ、お誘いできると良い。
- ・困っていることを聞いてもどこも大変だからと遠慮されてしまった。聞き取りが難しいと感じた。
- ・500年前の焼け野原になった歴史と今回の震災を重ねて説明されていたのが印象的。
- ・会えなくなった人が多くいて寂しく、何をすることも気持ちが続かないと言っていた。そういった方に人が集まれてホッとできる場所があるのは良いことだと思った。

